

研究・調査報告書

報告書番号	担当
191	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Reported alcohol consumption and cognitive decline: The northern Manhattan study. アルコール摂取と認知機能の低下: Northern Manhattan 研究	
執筆者	
Wright CB, Elkind MS, Luo X, Paik MC, Sacco RL.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Neuroepidemiology. 2006;27(4):201-7.	
キーワード	
認知能、TICS-m、飲酒量、電話調査、アポリポ蛋白、遺伝要因、コホート研究	
要 旨	
<p>背景: 中程度のアルコール摂取が認知能の低下を抑制すること、それには血管性および神経発生的メカニズムの双方が関与している可能性があることが指摘されている。</p> <p>目的: 本研究では、スペイン系、黒人、白人といった多人種の地域住民における認知機能とアルコール摂取との関連、およびその関連に対するアポリポ蛋白 Eϵ4 (以下、APOE4) 対立遺伝子の影響を検討した。</p> <p>方法: 1993~2001年にかけて Northern Manhattan 研究のベースライン調査が行われた脳卒中の既往のない対象者 3298名のうちアルコール関連疾患による入院のあるもの(31名)、TICS-mによる認知機能の評価以前の死亡者(508名)および脳卒中罹患者 (80名)、初回の認知機能の評価後の死亡者 (304名) および脳卒中罹患者 (48名) を除外した 1428名を本研究の分析対象とした。これらの対象者からは電話での聞き取りによるアルコール摂取量に関する情報と 2 回以上の TICS-m による認知機能の評価が得られた。</p> <p>結果: 調査対象者の飲酒習慣は、非飲酒者 300名 (21%)、禁酒者 622名 (44%)、週 1 杯未満の飲酒者 145名 (10%)、週 1 杯~日に 2 杯以下の飲酒者 330名 (23%)、日に 2 杯以上の飲酒者 31名 (2%) であった。認知機能とアルコール摂取量には正の関連が認められ、非飲酒者と比べて、週 1 杯未満・週 1 杯以上~日に 2 杯以下・日に 2 杯以上の飲酒は認知機能の低下が生じにくいことが示された (それぞれ、$p=0.09$、$p=0.001$、$p=0.003$)。APOE4 の情報が得られている被験者を用いた下位分析の結果、APOE4 はこの量反応関係に影響を与えていないことが明らかとなった。</p> <p>結論: 本研究の結果、飲酒者は非飲酒者と比して、血管性疾患危険因子を調整後もなお、電話での聞き取りによって評価された認知機能低下をきたしにくいことが明らかとなった。</p>	